

第2回 国営明石海峡公園 神戸地区 基本計画改定委員会

議事要旨

日 時：令和5年6月22日（木）14時45分～16時50分

場 所：国営明石海峡公園 神戸地区 管理センター（WEB形式併用）

出席者：出席者名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

- ・ 三井事務所長より挨拶。

3 委員会設置要綱の改定について

- ・ 事務局より人事異動等を踏まえた委員会設置要綱の改定（案）について説明。
- ・ 国営明石海峡公園神戸地区基本計画改定委員会設置要綱を施行。

4 議事

（1）「第1回委員会での主な意見」と「公園の利用状況」について

- ・ 資料2-1、2-2、3-1、3-2について、事務局より説明。
- ・ 棚田ゾーンは良い空間となっており、茅場整備場所は今後の可能性を非常に感じた一方で、森のゾーンの樹林は荒れている印象を受けたので、国営公園として、里山や湿地を保全した上で、体験できる場としても整備できると良い。
- ・ 小型モビリティ等の導入によって滞在時間が長くなり、本公園の多様な利用に繋がる可能性もある。
- ・ 現在の公園利用者のニーズへの対応を分かりやすい形で提供することが出来るのかが大きな課題ではないか。
- ・ 開拓する面白さを提供するような能動型のプログラムを実施するため、エリア毎に「ローカルルール」を決めれば、公園への関わり方が多様になるのではないか。
- ・ 民間の発想を取り入れ、流行のものを入れることも良いことではあるが、本公園では中長期を見据え、全国的に先進的な発想の開発ができると良い。
- ・ 本公園での取組みが、市の重点施策である里山を中心としたSDGsの取組みそのものであり、今後も市政を先導していくような取組みを進めていけると良い。
- ・ しあわせの村やキーナの森との連携・分担を進めていき、例えば、屋外宿泊機能を本公園に集約するといったことや、本公園の農作業体験をしあわせの村の宿泊者が行うなどの連携が出来ると良い。
- ・ 本公園は100年後、50年後の社会をリードするくらいの大きな位置づけを持つべきであ

る。

- ・ 利用の活性化にあたっては、アクセスの悪さが課題である。
- ・ 日本人が良いと思うものを外国人も良いと思うとは限らない。
- ・ 茅葺き屋根だけで集客することは難しい。
- ・ 地域の方がインバウンドを喜ばないこともあるが、地域やエリアでどれだけお金を落とすのかが重要なので、園内外で協力してインバウンドの方をおもてなしすることを考える必要がある。
- ・ 国営公園の維持管理については、メリハリをつけた管理運営が重要である。
- ・ インバウンドは時間と場所の棲み分けを上手く考えられると良い。
- ・ 単発イベントを民間に委託することも考えられる。
- ・ 茅場と湿地を上手く使えると良い。
- ・ 法面と畔には貴重種が出てくるので、田畑は民間、法面と畔は国が管理するなどの場所による役割分担も考えられる。
- ・ しあわせの村では、現地で活動している NPO 組織の卒業生が維持管理運営に貢献をしており、人材教育、育成の場ともなっているため、そういった人材の面でも周辺施設と色々な連携ができると良い。
- ・ NbS を始め、バイオフィリックデザイン等の文言を先取りするのか、提言するのか考える必要がある。
- ・ 南但馬自然学校などの環境学習のノウハウを持った施設と連携すれば、子ども達の受け入れのより良い方法を考えることが出来るのではないかと。

(2)「基本計画の改定」について

- ・ 資料 4-1、4-2 について、事務局より説明。
- ・ 全体の構成について、淡路地区と同じ章立てで書きづらければ、神戸地区特有の 1 章を足すことも考えられる。
- ・ P.2「Ⅱ. 計画のフレーム ④入り込み数」の削除について、入り込み数を削除する場合は、削除する理由の論理的な説明が必要である。
- ・ これからの入園者数をどう扱うのかは、本公園だけでなく、国営公園全体の話である。
- ・ P.5「Ⅲ-3. 公園の基本方針 ①環境・人に関する方針」について、人に関する部分について、開園してしばらく経ち更に追加するものがあるのであれば、人に関する部分を独立させても良いのではないかと。
- ・ 6~7 行目の削除について、「生物多様性の重要性の発信する拠点」として、本公園が本当に実現できているかは疑問であり、これは非常に重要な方針なので、記載は残しておく必要があるのではないかと。
- ・ 8~9 行目の変更について、「ノーマライゼーション」は考え方であり、「バリアフリー」は手段であるため、改定にあたり置き換える文言としては適切ではないのではないかと。
- ・ 置き換える文言としては、「ダイバーシティ」や「インクルーシブ」が良いのではないかと。
- ・ ダイバーシティやインクルージョン、ローカルルール等についても言及できると良いのではないかと。

- ・ 10～11 行目の追加について、グリーンインフラという言葉を使うのであれば、どのような機能を活用していきたいのかイメージしておくことが必要である。
- ・ 整備の方針として、新しい自然共生のこれからの暮らし方、生き方を体現するものとしても良いのではないか。
- ・ 新しい自然共生の暮らし方を体験できるモデルとなる公園を目指すことが重要であり、地域と連携して資源が循環するような生活や文化などを見せていくことが、インバウンドの集客にも繋がるのではないか。
- ・ P.6「Ⅲ-4. 両地区の整備方針 (1) 神戸地区」の 11～13 行目の変更について、インバウンドを集客するためには、地域の生の暮らしや、昔の日本の暮らしを体験できるような場の整備まで行うことを考える必要があるのではないか。
- ・ P.8「Ⅳ-1. 利用計画」の変更について、本公園をイメージできるような新しい概念について、委員の方からアイデアを出してもらっても良いのではないか。
- ・ 中国や韓国の人が同じ文化圏である日本の暮らしを見て学ぶなどの国際的な発想があっても面白い。
- ・ 図にバツ印を付けただけでは、淡路地区との関係を断ち切るような印象を受けるので、工夫が必要である。
- ・ 本公園の今後の利活用を考える際に、しあわせの村とキーナの森を含めた 3 公園の一体的な活用を位置づけてもらえれば、周辺施設も今後のあり方について検討しやすい。
- ・ 里地里山文化公園を目指すのであれば、利用計画という言葉では不十分であり、まず、地元の方と一緒に作っていく公園であるという考え方が示せると良い。
- ・ P.9～11「Ⅳ-2. 土地利用計画」「Ⅳ-3. 施設及び施設配置計画」について、ターゲット層を整理した上で、整備から利用プログラム、管理運営までをセットで考えることが非常に重要であるが、利用計画について具体的な書き込みがないため、独立した利用計画を新たに作ることも考えられる。
- ・ ターゲット層を整理した上で、公園で許容する活動のレベルに応じた大きなゾーン分けをすることが重要ではないか。
- ・ 空間の場の構造と、人々の利用構造と意識をセットで扱うエンバイロンメンタルセッティングという理論がある。
- ・ ユニセフパークとしての整備はせず、ソフト面を中心として公園全体でユニセフパークを体現していくことは良いと考える。
- ・ ビジターセンターはどのようなコンセプトで作るかが重要であり、高校生の探求の成果発表などで活用する場所としても良いのではないか。
- ・ 四季を通じて花が咲く、ニュース性がある場であれば、自然に人に来てもらえる。
- ・ P.14「Ⅳ-4. 動線計画」の変更について、木見口をなくして水と緑のゾーンと自然保全ゾーンを統合するのであれば、今後の園路計画をしっかりと考えておくことが必要ではないか。
- ・ P.33「Ⅶ. 管理運営計画」について、本公園の維持管理の労力の見える化をすることによって、兵庫県下の里地里山の保全活動に活かせる可能性がある。
- ・ 本公園の計画面積の全てを同じレベルで管理することは非常に大変なので、管理レベルの線引きが重要である。

- ・ 生物多様性の拠点の実現のために、具体的な計画を追記することが良いのではないか。

5 その他

- ・ 第3回委員会は秋頃開催を予定。

6 閉会

以上